



ボツワナを訪れ、子どもたちや指導者に柔道を指導した蹴揚さん(中央)

「柔」の心 海越え

蹴揚さん(三沢)ボツワナ訪れ指導

三 沢

三沢市のNPO法人「柔道スポーツ育成会」理事長の蹴揚将行さん(46)がこのほど、アフリカ南部のボツワナ共和国を訪れ、柔道交流を行った。2020年東京五輪に向けた国際交流基金の事業の一環で、全国から集めた中古の柔道着数十着も寄贈した。蹴揚さんは現地選手に基本動作や礼儀作法を指導、海を越えて「柔」の心を伝えた。

(加藤景子)

蹴揚さんは現在、八戸学院大や八戸工業高等専門学校柔道部で監督、コーチを務めるほか、少年柔道教室を主宰している。今回の訪問は、恩師の山下泰裕さんが理事長を務める「柔道教育ソリダリティー」が同基金の依頼を受けたことで実現。過去2回、アフリカでの指導経験がある蹴揚さんが講師に選ばれた。

2月26日から10日間、現地の小学校や柔道場で連日朝から指導に当たった。地方では、床の上にマットを敷いた道場で子どもたちが練習していた。恵まれない環境でも「五輪に出場したい」「日本で柔道を学び指導者になりたい」と、真剣に練習する選手たちの表情が印象的だった。

ボツワナでは数年前、東海大の後輩に当たる井坪圭佑さんが、青年海外協力隊員として柔道の普及に力を注いでいた。しかし井坪さんは任期中、不慮の事故により死去。首都ハボローネには、井坪さんを記念する立派な道場が建てられた。初めてこの道場を訪れた蹴揚さんは、選手たちの礼節に感銘を受けた。五輪選手も育ち、井坪さんの遺志が現地で花開いていることをうれしく思ったという。

東京五輪を控え、アフリカへれば、日本にとっても脅威でも柔道の楽しさを伝えたい。蹴揚さんは「身体能力の高く、基本を身に付け、燃やす。同時に、ボツワナ選手たちに再会することを楽しみにしている。」